



バイオームの取り組みご紹介

生物多様性の保全を、社会の当然に。

株式会社バイオーム | Corporate Deck 2026

SECTION 01

About Biome inc.

生物多様性をまもるためのスタートアップ°

ネイチャーポジティブと経済の両立

ボードメンバー



代表取締役CEO
藤木 庄五郎

- 京都大学大学院博士号（農学）
- 環境省2030生物多様性枠組実現日本会議行動変容WG専門委員
- 日本自然保護協会評議員
- 生物多様性ISO/TC331オブザーバー
- TNFDデータカタリストメンバー
- TNFDフォーラムメンバー
- InnovatorsUnder34Japan2021



取締役CTO
源六 孝典

- 京都大学大学院修士号（農学）
- フルスタックエンジニア
- 情報処理安全確保支援士
- 生物多様性分野に特化し、システム開発、および統計解析業務に10年以上従事



取締役COO
多賀 洋輝

- 京都大学大学院修士号（農学）
- 市民科学による生物調査、グリーンインフラの社会実装、TNFDレポート作成など幅広く生物多様性領域の事業に従事
- 日本生態学会生態系管理専門委員
- 京都産業大学生命科学科客員研究員
- 学芸員

外部アドバイザー



香坂 玲

東京大学農学生命科学研究科/農学部 森林風致計画学研究室 教授
日本学術会議の連携会員（環境学）
生物多様性条約COP10支援実行委員会アドバイザー
国際連合大学高等研究所客員研究員



潮 雅之

香港科技大学 海洋学科 助理教授
合同会社Rizabics・業務執行社員



橋本 務太

WWFジャパン 自然保護室 金融グループ長

会社概要

社名	株式会社バイオーム
設立	2017年5月31年
資本金	4億7,406万円（資本準備金含む）
代表	代表取締役 藤木 庄五郎
従業員	53名（アルバイト含む）
拠点	本社オフィス 京都市下京区中堂寺南町134番地 四条烏丸オフィス 京都市下京区綾小路通新町東入善長寺町143
事業内容	生物情報プラットフォーム
問い合わせ	メール：info@biome.co.jp H P：https://biome.co.jp

会社略歴

2017年	京都大学技術イノベーション事業化コース 最優秀賞
2017年	EDGE KANSAI ピッチコンテスト 審査員特別賞
2017年	KeihannaVenture Championship 特別賞
2018年	起業家万博 審査員特別賞 受賞
2018年	第五回京信・地域の起業家大賞 最優秀賞
2018年	インデペンデンツクラブ地域大賞（関西地区）
2018年	経済産業省J-Startup認定企業
2019年	京都市目利き委員会Aランク認定
2019年	NBKニュービジネスアワード2019 グランプリ
2021年	インデペンデンツクラブ地域大賞（関西地区2度目）
2021年	Japan Challenge Gate2021 中小企業庁長官賞
2021年	Innovators Under 35 Japan 2021
2022年	京都・知恵アントレ賞2022
2023年	環境省「環境スタートアップ事業構想賞」
2023年	経済産業省J-StartupImpact認定
2023年	シリーズB資金調達
2025年	グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金採択
2026年	経団連 加盟



国内最大の生物観測データ

BiomeDB
Biodiversity Database by BIOME

発見種数：
52,449種

発見個体数：
11,422,163個体

データに裏打ちされた解析

BiomeViewer

BiomeAI (種同定AI)
(※)海外は地域別に
順次
公開予定

NP加速ソリューション

BiomeBoard

BIOME **BiomeSurvey**

ステークホルダーとの共創

400以上のプロジェクトを実施

AEON **NTT** **KDDI** **東急**
OJI **Marubeni** **大東建託**
KEIO **東急不動産** **MITSUBISHI ELECTRIC**
co-op **MORI** **BRIDGESTONE**
JR **JR** **JR** **ちゅうぎんFG** **CTI**
ニチアス **CHIIKAN** **NIKKEN**
Ryobi **阪急阪神不動産** **西武不動産**
住友林業 **TAKENAKA** **日鉄興和不動産**
環境省 **国土交通省** **東京都**
千葉県 **奈良県** **KOBE** **福岡市**
名古屋市 **川崎市** **千葉市** **伊勢崎市**
足立区 **港区** **千代田区** **荒川区** **世田谷区**
日本自然保護協会 **WWF** **東京大学** **京都大学**
大阪大学 **東北大学** **愛媛大学** **早稲田大学**
京都産業大学 **福山大学** **帯広畜産大学**
産総研 **国立環境研究所** **国立環境研究所**
おおさか環境水研 **BRIN** **UNIVERSIDAD MAYOR DE SAN SIMON** **香港浸會大學**

(※)ここの取引先は一部例示もの、順不同

SECTION 02

Our Initiatives

バイオームの取り組みについて

ミクロ・エリア単位

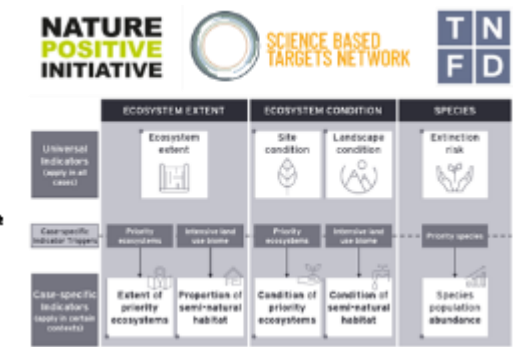
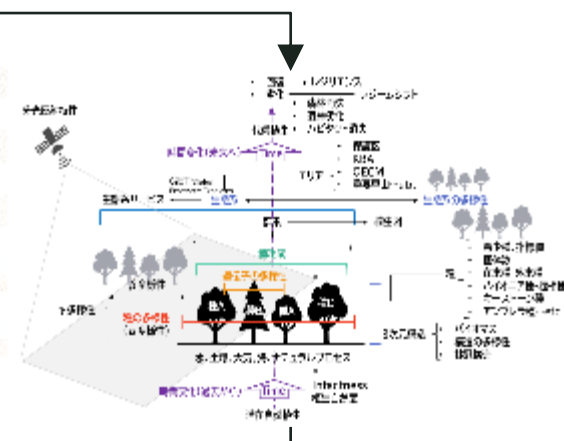
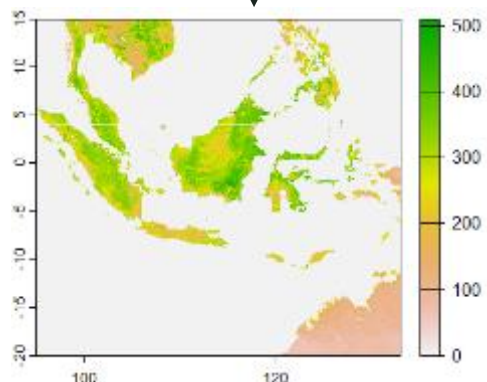
マクロ・地域/国家単位

① 現地データ

② 推定データ

③ 解釈データ

④ フレーム適応



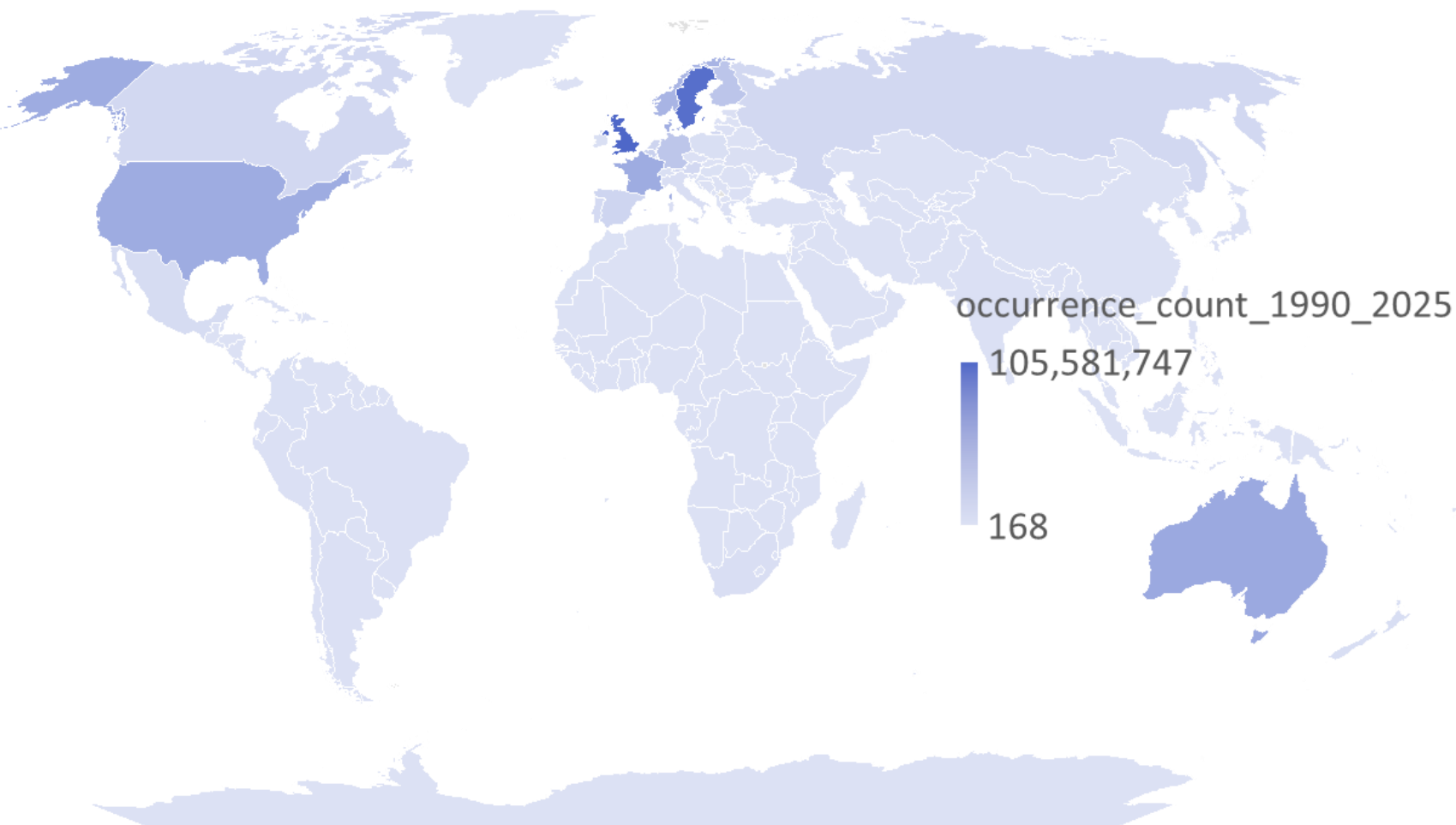
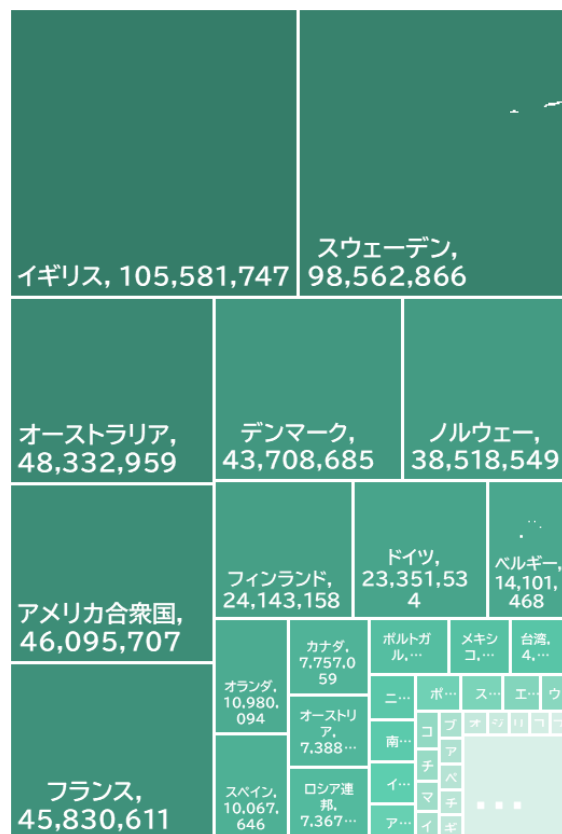
- 専門家調査
- 市民科学
- 環境DNA
- カメラトラップ
- 音響解析
- ドローン撮影
- ...

- 種分布モデル
- 衛星リモセン
- LiDAR
- AI活用
- ...

- State of Nature指標
- STAR
- 保全優先度
- 希少種生息地
- 重要生態系
- 森林減少
- ...

- TNFD
- SBTN
- IUCN RHINO
- CDP
- ...

1990年以降のデータ件数（世界的データベースGBIFより）
一部の先進国以外はほとんどデータがない状況



課題

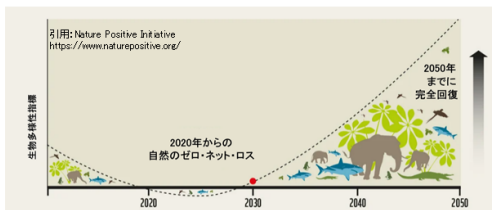
- 生物多様性の評価はマルチクライテリアで複雑
- データの不足・解釈のための学識不足が、数値化と社会制度化の妨げになってきた

- 二酸化炭素
- 排気ガス
- 工業・生活廃水

- 生物多様性

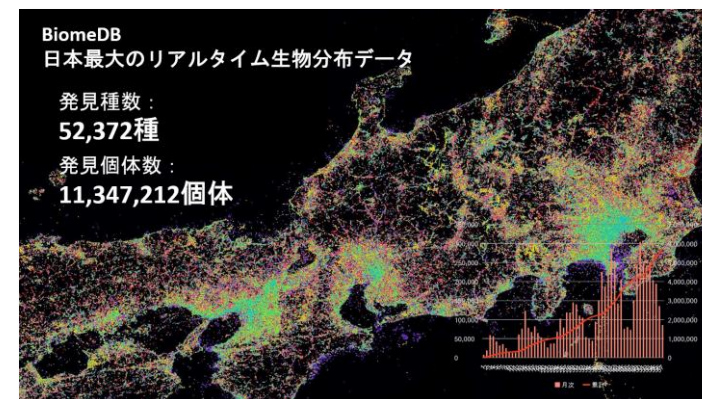
数値化 できる

難しい



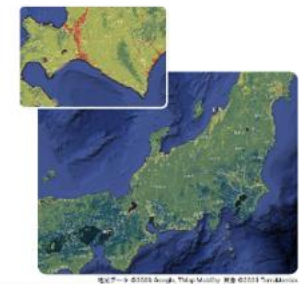
バイオームの取組

- バイオームは世界中の人々と協同しながら膨大な生物データを収集
- 解析技術の発展、評価指標に関する世界的な合意形成が進んだことも相まって、困難とされてきた生物多様性評価が実現してきている



生物多様性の可視化サービス

BiomeViewer



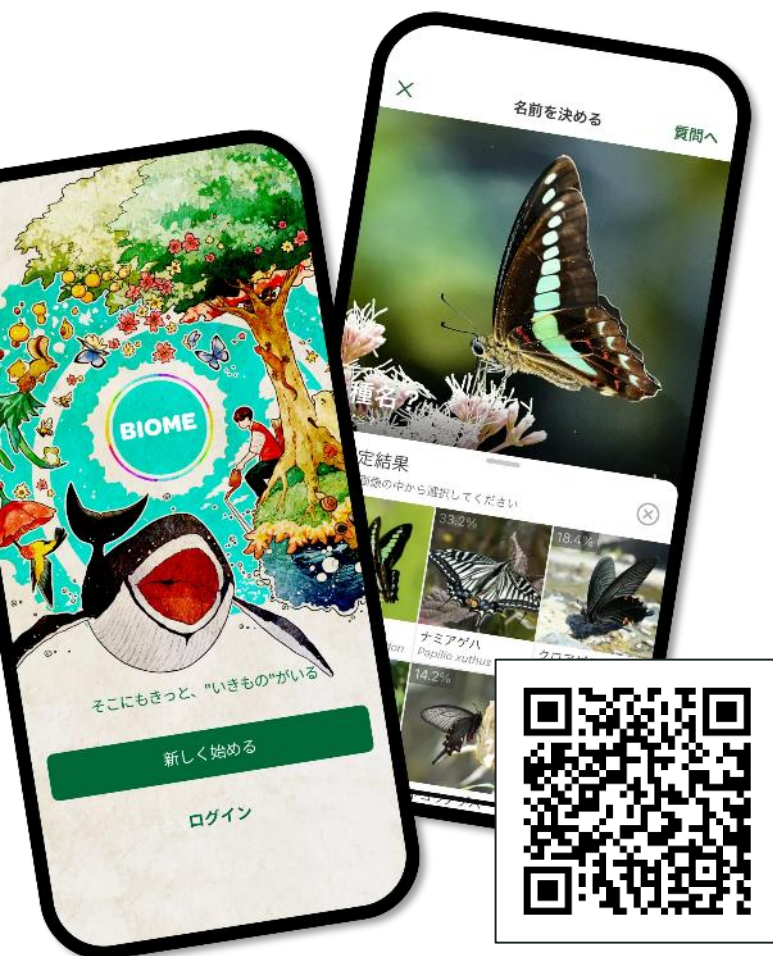


「たのしい」を原動力にしたシチズンサイエンス生物調査プラットフォーム
AI・ゲーミフィケーション・ナッジを活用した充実したユーザー体験を創出

対応種数
10万種以上

ユーザー
130万人

累計PV数
3億回以上



いきものSNS

日本最大のいきもの好きコミュニティ



レベルアップ

投稿でレベルが上がりバッジがもらえる



いきものクエスト

いきものを探して冒険！



いきものマップ

全国のいきものが見られる※



みんなでつくる図鑑

日本の動物ほぼ全部！約10万種掲載※



※ 安全の観点から希少種に関してはマップ上では非表示、および撮影地名を非表示としています

※ 安全面への配慮から動物・虫類には対応していません

BiomeDB

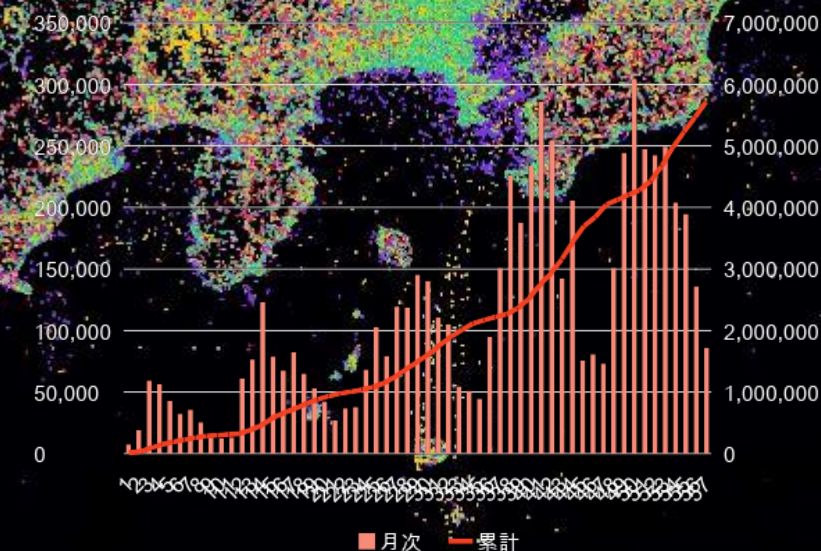
日本最大のリアルタイム生物分布データ

発見種数:

52,449種

発見個体数:

11,422,163個体



収集されるデータ | 希少種の一例



オオサンショウウオ
@どすこいパイナポー



オガサワラオコウモリ
@蛭石



シラン
@BLUE GILL (あおえら)



ハクセンシオマネキ
@ナガレホトケドジョウ斑紋型



ヤシガニ
@てらもとたいせい



イボイボナメクジ
@A. osakana



トモエガモ
@カレン R7



ミズミソウ
@広島カープファン



エゾナキウサギ
@のすり



オオギセル
@Goblinshark



ラッコ
@つよしまる



コアジサン
@ゴールデンコメット



ギフチョウ
@WbigD



サクラマス
@のすり



ユキモチソウ
@KEITEN



セツブンソウ
@takeyumi



コウノリ
@t-kus



アミノクロウサギ
@チュウタロウ



オガサワラヨシノボリ
@イワセ



カブトガニ
@HMSK



オナガミズアオ
@a_totoro



セトウチサンショウウオ
@クロマメ5号



アマミトゲネズミ
@蛭石



クマタカ
@レオ8



ライチョウ
@Kuwatch



アカウミガメ
@菅野修也



ハヤブサ
@GURA2000



アマミシカワガエル
@yotan



ナニワトンボ
@ゴールデンコメット

収集されるデータ | 外来種の検知



シチズンサイエンスは新規に侵入してくる外来種の分布状況把握に非常に有効

右の図は東京都における外来種数種のBiomeの投稿を、東京都の区分した定着段階とともに示したものであるが、投稿が寄せられた地理的な範囲は東京都の区分とよく合致しており、かつポイントデータの集合として、リアルタイムに分布拡大状況を補足できていることが見て取れる。

また、当社が[香港バプチスト大学](#)や[国立環境研究所等](#)と共同で進めていた[学術研究](#)によって、その有効性と具体的な補完構造が定量的に実証されている

定着初期/限定分布

● クレンジングされていないデータ
(誤同定の可能性有)

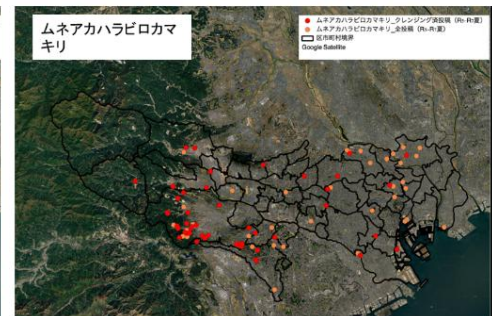
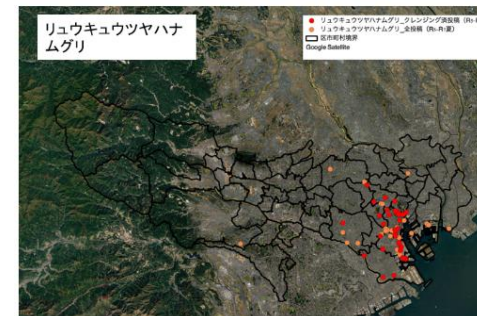
● クレンジング済みのデータ



定着初期/限定分布

● クレンジングされていないデータ
(誤同定の可能性有)

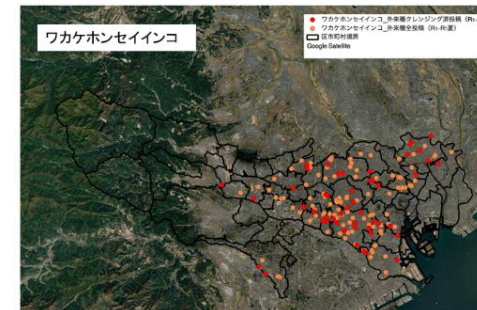
● クレンジング済みのデータ



分布拡大～まん延期

● クレンジングされていないデータ
(誤同定の可能性有)

● クレンジング済みのデータ



8カ国

プロジェクト進行中



ピューマ(エクアドル)



アンデスキツネの仲間(ボリビア)



パンパスキャット(エクアドル)



アンデスママネコの仲間(ボリビア)



SECTION 03

Our Projects

産官学民連携のプロジェクトのご紹介

東京いきもの調査団

都全域を網羅する野生生物目録を作成する長期プロジェクト

支援内容

- ・ アプリ「Biome」を用いた大規模な都民参加型生物調査
- ・ 博物館の標本、過去の調査情報、Biomeの投稿データの整理
- ・ 「東京いきもの台帳」のシステム構築と保守運用

キーポイント

持続的な生態系モニタリングは、行政職員だけではリソースが全く足りない。さらに専門人材の高齢化が拍車をかける。本プロジェクトは、シチズンサイエンスがそうしたリソース不足を補えることを示した好事例。

また、都民への普及啓発や企業との連携にも展開できていることも特徴。



ブリヂストンエコピアの森

ブリヂストンは製造拠点のある各自治体と森林組合等と連携し、ネーミングライツを取得して、森林保全への貢献活動を展開

支援内容

- ・ エコピアの森敷地内での生物情報の収集（現地調査）
- ・ 梅光学院大学と連携した、アプリ「Biome」を用いた子ども向け自然学習イベントを実施
- ・ 自然共生サイト申請書の作成

キーポイント

登録が目的になってはいけない

地域のステークホルダーと合意形成を図りながら、みんなにとって価値のある場所を作ることが大事

登録後も活用される仕掛け（生態系サービスの価値化）がないと、企業として投資し続けることが難しくなる

「エコピアの森 下関・深坂」における生物多様性の維持活動実施計画の概要

【実施区域・面積】

山口県、271.8ha

【生態系タイプ】

里山林、人工林、水田、河川・湖沼

【実施区域の状況】

およそ250ヘクタールの市有林内にある自然環境に恵まれた森で、ヤマザクラ、ヤマツツジ、イロハモミジ、ヤブツバキなど四季折々の自然を満喫することができる。小川や周辺の森、草原には環境省・県の絶滅/準絶滅危惧種も数種類確認されているなど、豊かな生態系が育まれている。

【目標】

希少種を含めて在来種を中心とした豊かな生態系を維持しつつ、市民にレクリエーションの場を提供する。それと同時に、自然学習の機会を提供し、市民に里山環境の保全の重要性を学んでもらう場として活用する。

【主な活動内容】

「エコピアの森 下関・深坂における森林整備実施協定書」に基づくエコ活動（森林保全活動）として、下草刈りや枝打ち、間伐等を実施する。また、地域住民や株式会社ブリヂストンの従業員を対象とした自然学習イベント（森林保全体験や生物観察会を企画）、子供を対象とした生物観察会を実施する。

【モニタリング計画】

維管束植物、鳥類、魚類を対象として、深坂自然の森 森の家下関周辺を中心としたエリアにおいてモニタリングを実施する。1年に2回の頻度で、自然学習イベントの際に実施する。

【実施体制】

株式会社ブリヂストンが自然学習イベント（森林保全体験や生物観察会）を運営し、梅光学院大学（子ども学部子ども未来学科）がイベント運営を支援する。また、みさかの森自然学校共同事業体が生物観察会等を企画・運営する。



- 生物多様性には「**地域性**」がある。
炭素領域と違って難しいところでもあり、面白いところでもある。
- ネイチャーポジティブの正解は地域ごとに違うし、**地域ごとに個性のあるNP経済**を作ることができるはず。
- TNFDや自然共生サイトはあくまでフレームワークやパッケージであって、それが目的ではない。
自社の事業や活動地域にとって、**自然資本がどう持続的に活かせるのか**を、データドリブンに考えることが大事。
- 自然資本は公共財的性質が強い。なので、**地域のステークホルダーで連携**した取り組みが求められる。

